

山梨県立甲府工業高等学校

コミュニティ・スクールのスタート

創りたい未来・育てたい生徒 心をひとつに

時代の変化に 対応するために



どのような未来を創るのか？
どのような人材を育てるのか？

「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の実現に向けて

◆なぜ今、**コミュニティ・スクール** と **地域学校協働活動** が必要なのか？

背景 時代の変化に伴い学校と地域の在り方が変化

◆教育環境を取り巻く状況

- 児童生徒数の減少
- 子供の規範意識等への課題
- 学校が抱える課題の複雑化・困難化

◆社会の動向

- 少子高齢化の進行
- グローバル化や情報化の進展
- 地域社会のつながりや支え合いの希薄化による地域の教育力の低下

◆教育改革の動き

- 「社会に開かれた教育課程」の実現など

◆地方創生の動き

- 学校を核とした地域の活性化

求められるものとは・・・

- ◆これからの時代を生き抜く力の育成（学校だけでは得られない知識・経験・能力）
- ◆地域住民が自ら地域を創っていくという「主体的な意識」への転換

学校と地域の連携・協働が必要

具体的な取組として・・・

コミュニティ・スクール

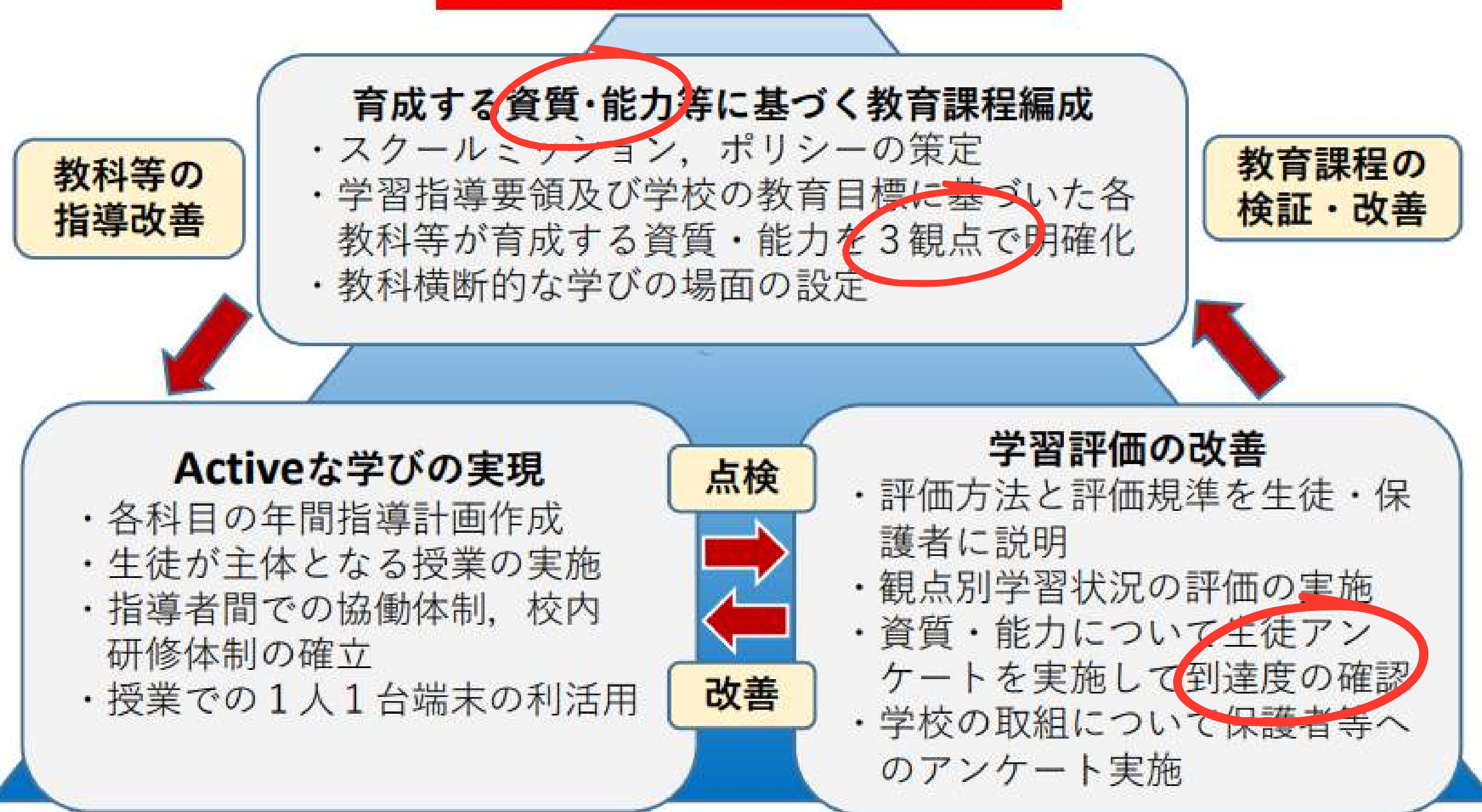


地域学校協働活動

『目標』や『ビジョン』
の共有

「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を併せて実現！

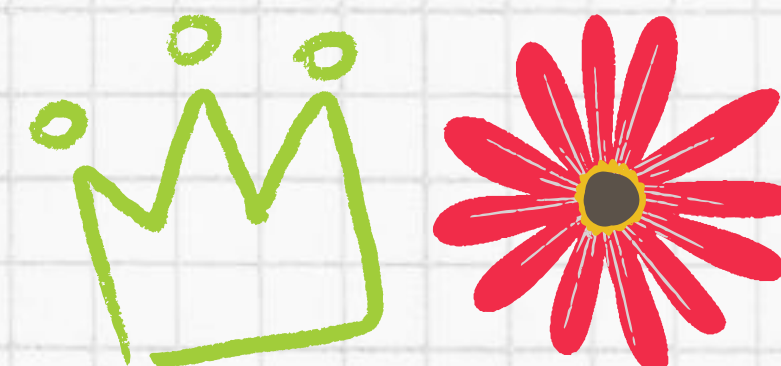
具体的な取組内容



汎用的な
資質・能力の育成

具体的な
3観点の授業目標

到達度を確認しながら
授業と指導を改善！



新しい「学習指導要領」の「資質・能力の三つの柱」

- ① 生きて働く知識・技能の習得
- ② 未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成
- ③ 学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

3つの資質・能力に対応する3つの観点

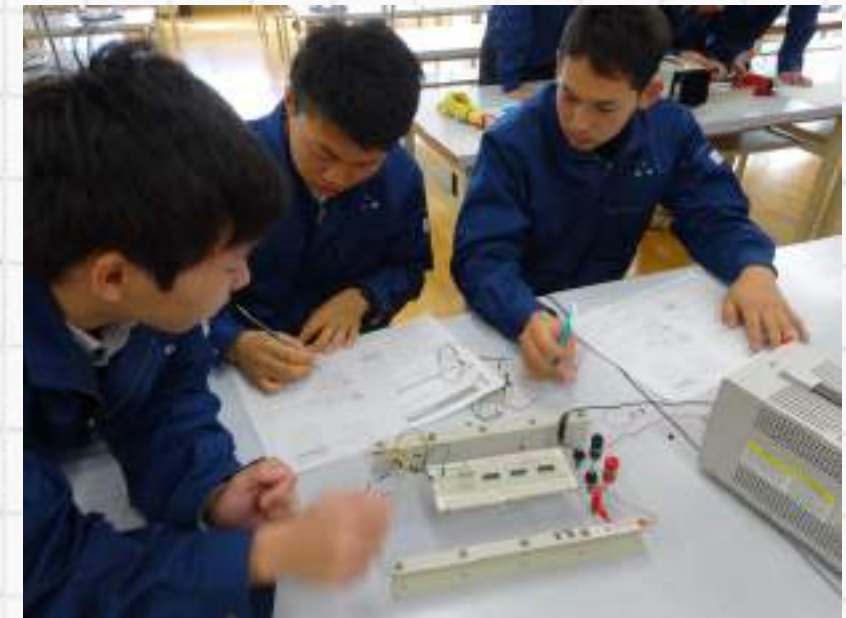
- ① 「知識・技能（技術）」
- ② 「思考・判断・表現」
- ③ 「主体的に学習に取り組む態度」

この3つの観点から授業での評価を行い、
資質・能力の育成につなげます。



甲府工業高校が 育成を目指す資質・能力

- ①課題発見力 ②論理的思考力
- ③課題解決力 ④知識力 ⑤実践的技術力
- ⑥外国語（英語）活用力 ⑦創造力
- ⑧コミュニケーション力 ⑨社会人倫理力
- ⑩主体性（学びに向かう力） ⑪発信力



抽象的・汎用的な
資質能力の育成を
具体的な授業目標
で目指す。

例えば、「数学Ⅲ」の場合。

生徒に身につけさせたい資質・能力のひとつ
「数学Ⅰ・Ⅱにおける学習内容を基盤として、
極限・微分法・積分法に関する概念や法則を
理解し、公式などを用いて処理することが
できる。」

↑ 適切に自己評価するのが難しい…

授業の目標で
具体的に
自己評価しよう。



自己評価しやすい！

- ・ さまざまな関数の極限を求めることができる。
- ・ 公式を用いて、微分することができる。

校訓:質実剛健 信条:技術者となる前に人間となれ



山梨県立 KOFU TECHNICAL HIGH SCHOOL

甲府工業高等学校



山梨県高等学校学力向上プロジェクト

未来を拓く

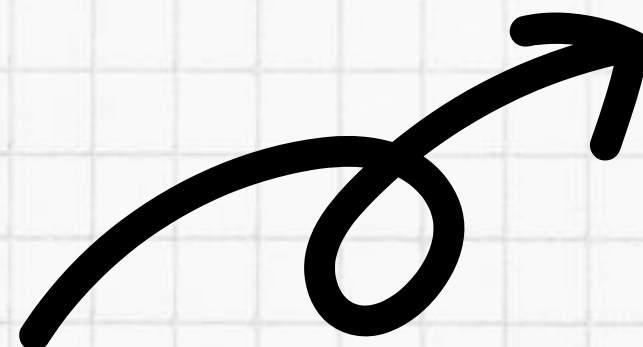
Active School Kai Project

汎用的な 資質・能力の 自己評価

到達度を確認しながら
授業と指導を改善！



具体的な 3 観点の授業目標の 自己評価



① 「知識・技能（技術）」

② 「思考・判断・表現」

③ 「主体的に学習に取り組む態度」

B
授業がちょうどいい。❤️

A
授業は簡単。🎵

C
授業が難しい…。💧

↓ ↓ 数値化

電子に関する知識・技術を体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。

山梨県学力向上計画の
「身につけさせたい資質・能力」

電波の伝わり方が周波数により異なること、移動通信における多元接続の種類と原理について理解している。

電子技術に関する課題を発見し、電子技術者として倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に課題を解決できる。

電子科3年の 科目「通信技術」 の授業と評価の例

各種のアンテナの形状と性質およびAM受信機とFM受信機の機能などを比較しながら説明することができる。

電子技術者として豊かな人間性を身につけ、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むことができる。

本校の生徒が自己評価する
資質・能力につながる評価規準
(学びの目標)

授業の具体的な内容で示して
授業の学びの成果としての
自己評価がしやすいように工夫！

身近にあるアンテナや携帯電話などの移動通信システムはどのように構築されているのかなどについて関心をもっている。

「社会に開かれた教育課程」の実現

ひとつ前のページの授業と評価の例で、

「このような資質・能力を身につけるために、
このような目標で学んでいる甲府工業高校の生徒は、
私たちの地域の課題を解決する人材になってくれる。」

と、思っていただけでしたか？

「社会に開かれた教育課程」の実現

教えてください。
地域の皆様が
目指す未来を。

地域社会の
目標

=
イコール

甲府工業の
目標

知ってください。
甲府工業高校が
目指す教育を。

コミュニティ・スクールで
お互いへの貢献「win-win」の絆が
可能になります。

次ページからの内容

令和6年度 山梨県学力向上計画報告書 1学年 2学年 3学年 の各ページ

報告書は、本校作成の書式ではなく県指定の書式です。
スマートフォンよりパソコンでご覧いただく方が、
文字をお読みになりやすいかと思います。

留意点

※ 「山梨県学力向上計画報告書」は、
令和6年度末に
各県立高校のホームページで
公開されていますが、
各高校が育成を目指す資質・能力、
授業の難易度設定等は異なるため、
各高校間で数値を比較できる資料ではありません。

本校は、授業の観点別評価を活用し、A：5・B：4・C：1で数値化しています。

Active School Kai Project 令和6年度プロジェクト計画書(報告書)

学校番号	8	学校名	甲府工業高等学校	
全・定・通	全	学年	1	在籍生徒数 275 名
教育目標 (学力に関するもの)		①課題発見力 ②論理的思考力 ③課題解決力 ④知識力 ⑤実践的技術力 ⑥外国語(英語)活用能力 ⑦創造力⑧コミュニケーション力 ⑨社会人倫理力 ⑩主体性(学びに向かう力) ⑪発信力		
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力		1 社会が必要とする人間力を身につけた人 2 基礎的・基本的な学力を身につけた人 3 健全な心強い体を身につけた人 4 新しい時代に対応できる能力を身につけた人		
各教科の取組				
教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
国語	実社会に必要な常用漢字の読み書きや、語句の意味と文章の中で理解して語彙を豊かにしたりすることができる。	4	4.4	昨年度、中間評価時の単元「古典を学ぶ意義を考えよう」では、「枕草子」の理解の場面が、古典常識の語彙や情景状況を理解する場となり、思惟的にたぐひない課題があった。今年度は、「俳句」「民謡」「多岐林」「朝顔」等について、ICTを活用し、動画や画像から理解できる授業改善ができる。次年度へより高めたい。
	文章の種類を踏まえて、内容を的確に捉えることができ、自分の知識経験を活かして表現することができる。	4.1	4.4	昨年度、中間評価時の単元「古典を学ぶ意義を考えよう」では、読書である『平家物語』と随筆である『枕草子』について、単元を一貫して学べることで主眼が深まり、読解を通して思考を深められる授業を行い、よい成果だった。今年度は、随筆教材で単元をつくり、思惟で読める授業改善を実施した。次年度へより高めたい。
	授業で主体的に取り組んだ経験を記録し、経験を振り返りながら、今後の社会や人生での創造に活かそうとすることができ、歴史を通じて過去から現在までの流れを身に付け、現代社会で起きている課題を積極的に学習に取り組みができる。	4.2	4.1	「和漢文化の美と楽しみ方」なら、重宝記物に描かれた人物の心情を読み取りながら、自由進度学習の切りめでFormaによる形成自己評価を行い、自身が自身の主体性(自己調整)を確認できたという授業改善を引き継いだ。本プロジェクト終了後も継続したい。
地公	現代社会で起きている課題をグローバルな視点で分析し、解決に向けた方法を考えることができる。	4.1	4.2	昨年度は、政治の成り立ちや経済学の単元で、現在と歴史を対照しながら学習させた際、教師からの説明が多かった。今年度は、生徒主体グループで比較資料を作成させることで、授業展開が改善できた。次年度も、教科指導的なグループ学習を取り組むこと。
	新聞やニュースを通じ日々変化する社会に関心をもち、自分たちができることを探求することができる。	4.1	4.3	世界の国の発展段階や日本における産業革命の場面で、他国と比較しながら、及び自国の発展に向けて考えをもつを引継ぎ続けた。また、「新しい人口」の単元では、世の中を創る役割、より良い生活を実現するために必要な権利やPatentを使用し、クラス内で共有しながら考えを互いに継続できた。今後にも取り組む必要がある機会を磨きしていきたい。
	授業内で日本や世界共通に関わる記事を取り上げ、世の中への理解感を高めるのにより進捗を促した。また、毎回の定期試験で時事問題に関わり、自ら調べ学ぶ力を養った。昨年度は、生徒自身が発見するなどのアウトプットの時間を取ることに努めたが、今年度は授業時間内で行った。これらを含め本年度へ引き続き。	4.2	4.2	授業内で日本や世界共通に関わる記事を取り上げ、世の中への理解感を高めるのにより進捗を促した。また、毎回の定期試験で時事問題に関わり、自ら調べ学ぶ力を養った。昨年度は、生徒自身が発見するなどのアウトプットの時間を取ることに努めたが、今年度は授業時間内で行った。これらを含め本年度へ引き続き。
数学	中学校数学における学習内容を基盤として、数学Ⅰに関する基本的な概念や法則を理解し、公式などを活用して処理することができる。	4.9	4.2	2次方程式の単元では、2次関数のグラフを利用することで、答方が全く異なることに意識し、解答パターンについて考えたりうながした。昨年度は解答パターンを覚えるだけに止まらずに、なぜその答えになるのか、今年度はグラフイメージを画面上に出し、生徒が視覚を活用した授業改善に取り組むこと。
	数式や目的に応じて変形したり、図形の性質や量について論理的に考察し表現することができる。また、自作図に挑戦しようとしている。	4.7	4.1	2次不等式の単元では、基本解答パターンと数値パターンがあり大きく異なるが、2次方程式と類似した場合も含めて、今年度は、数式や目的に応じて変形したり、図形の性質や量について論理的に考察し表現することができる。また、自作図に挑戦しようとしている。
	評論文を通じて授業内容を取り扱い、演習などでも単元の理解を再確認・改善しようと心掛け、問題解決に取り組むことができる。	4.2	4.3	評論文とは授業の要約ではなく主観に基づいて意見を行うものであるが、授業内容の理解を助けるために、演習などで単元の理解を再確認・改善しようと心掛け、問題解決に取り組むことができる。
理科	身近に起きている科学的現象や人間生活と関連させながら基本的な科学的手法を用いて、科学的探究の方法を身に付け、具体的な実験や観察の手法を見いだすことができる。	4.6	4.5	評論文とは授業の要約ではなく主観に基づいて意見を行うものであるが、授業内容の理解を助けるために、演習などで単元の理解を再確認・改善しようと心掛け、問題解決に取り組むことができる。
	実験や観察を通して、科学的に考察することをレポートやポスターなどにまとめ、発表することができる。	4.1	4.4	評論文とは授業の要約ではなく主観に基づいて意見を行うものであるが、授業内容の理解を助けるために、演習などで単元の理解を再確認・改善しようと心掛け、問題解決に取り組むことができる。
	身の回りで見られる様々な現象に関心をもち、科学的に探究することができる。	4.5	4.4	身の回りで見られる様々な現象に関心をもち、科学的に探究することができる。
英語	英語の音や語彙、表現、文法、言語の働きなどへの理解を深め、実際のコミュニケーションに必要な技能を身に付けることができる。	4.4	4.3	昨年度の取り組みを引き継ぎ、1年生のLessonでは個人読解を用いた英文作文を行い、特定の職業について書く。2年次の授業では、基礎的な文法事項と文法知識の両方を活用し、自分の興味のあるトピックを選び、自分の作品を発表することによって、生徒の意欲を高めた。今年度は昨年年度の学びを生かしながら、さらに、授業の工夫に取り組むこと。
	目的や場面、状況などに応じて日常的な話題や社会的な話題について考え、判断し、表現することができる。	4.3	4.3	昨年度の取り組みを引き継ぎ、1年生のLessonでは個人読解を用いた英文作文を行い、特定の職業について書く。2年次の授業では、基礎的な文法事項と文法知識の両方を活用し、自分の興味のあるトピックを選び、自分の作品を発表することによって、生徒の意欲を高めた。今年度は昨年年度の学びを生かしながら、さらに、授業の工夫に取り組むこと。
	主眼的、目的的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることができる。	4.6	4.3	昨年度の取り組みを引き継ぎ、1年生のLessonでは個人読解を用いた英文作文を行い、特定の職業について書く。2年次の授業では、基礎的な文法事項と文法知識の両方を活用し、自分の興味のあるトピックを選び、自分の作品を発表することによって、生徒の意欲を高めた。今年度は昨年年度の学びを生かしながら、さらに、授業の工夫に取り組むこと。
芸術	芸術の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術、鑑賞力を身に付けている。	4.5	4.6	昨年度の取り組みを引き継ぎ、1年生のLessonでは個人読解を用いた英文作文を行い、特定の職業について書く。2年次の授業では、基礎的な文法事項と文法知識の両方を活用し、自分の興味のあるトピックを選び、自分の作品を発表することによって、生徒の意欲を高めた。今年度は昨年年度の学びを生かしながら、さらに、授業の工夫に取り組むこと。
	芸術に関する課題を発見し、表現者に求められる感性を身に付け、創造的に解決し、表現力の方を身に付ける。	4.5	4.6	昨年度の取り組みを引き継ぎ、1年生のLessonでは個人読解を用いた英文作文を行い、特定の職業について書く。2年次の授業では、基礎的な文法事項と文法知識の両方を活用し、自分の興味のあるトピックを選び、自分の作品を発表することによって、生徒の意欲を高めた。今年度は昨年年度の学びを生かしながら、さらに、授業の工夫に取り組むこと。
	身の回りで見られる様々な芸術に関心をもち、探究することができる。	4.6	4.6	昨年度の取り組みを引き継ぎ、1年生のLessonでは個人読解を用いた英文作文を行い、特定の職業について書く。2年次の授業では、基礎的な文法事項と文法知識の両方を活用し、自分の興味のあるトピックを選び、自分の作品を発表することによって、生徒の意欲を高めた。今年度は昨年年度の学びを生かしながら、さらに、授業の工夫に取り組むこと。
家庭	人の一生と家族・家庭、子どもと高齢者との関わりと福祉・衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得する。	4.5	4.4	昨年度の取り組みを引き継ぎ、1年生のLessonでは個人読解を用いた英文作文を行い、特定の職業について書く。2年次の授業では、基礎的な文法事項と文法知識の両方を活用し、自分の興味のあるトピックを選び、自分の作品を発表することによって、生徒の意欲を高めた。今年度は昨年年度の学びを生かしながら、さらに、授業の工夫に取り組むこと。
	学習した知識や技術を活かし、家庭や地域での生活課題を主体的に解決する態度を育成する。	4.4	4.4	昨年度の取り組みを引き継ぎ、1年生のLessonでは個人読解を用いた英文作文を行い、特定の職業について書く。2年次の授業では、基礎的な文法事項と文法知識の両方を活用し、自分の興味のあるトピックを選び、自分の作品を発表することによって、生徒の意欲を高めた。今年度は昨年年度の学びを生かしながら、さらに、授業の工夫に取り組むこと。
	家族や社会との共生を目指し、生活の充実や向上を図るための実践的な態度を育てる。	4.6	4.5	昨年度の取り組みを引き継ぎ、1年生のLessonでは個人読解を用いた英文作文を行い、特定の職業について書く。2年次の授業では、基礎的な文法事項と文法知識の両方を活用し、自分の興味のあるトピックを選び、自分の作品を発表することによって、生徒の意欲を高めた。今年度は昨年年度の学びを生かしながら、さらに、授業の工夫に取り組むこと。
保健	基本的な体力を身につけ、自己に応じた目標設定、練習方法の選択と実施、新たな目標設定等の過程を習得する。	4.5	4.4	昨年度の取り組みを引き継ぎ、1年生のLessonでは個人読解を用いた英文作文を行い、特定の職業について書く。2年次の授業では、基礎的な文法事項と文法知識の両方を活用し、自分の興味のあるトピックを選び、自分の作品を発表することによって、生徒の意欲を高めた。今年度は昨年年度の学びを生かしながら、さらに、授業の工夫に取り組むこと。
	自己の仲間の動きを分析して、良い点や課題点を指摘し、課題解決の過程を踏まえて仲間と共に課題を発見する力を養う。	4.5	4.4	昨年度の取り組みを引き継ぎ、1年生のLessonでは個人読解を用いた英文作文を行い、特定の職業について書く。2年次の授業では、基礎的な文法事項と文法知識の両方を活用し、自分の興味のあるトピックを選び、自分の作品を発表することによって、生徒の意欲を高めた。今年度は昨年年度の学びを生かしながら、さらに、授業の工夫に取り組むこと。
	体力、技術を向上するとともに、課題や挑戦を大切にして危険予測をしなが仲間と共に協調性を養う。	4.7	4.6	昨年度の取り組みを引き継ぎ、1年生のLessonでは個人読解を用いた英文作文を行い、特定の職業について書く。2年次の授業では、基礎的な文法事項と文法知識の両方を活用し、自分の興味のあるトピックを選び、自分の作品を発表することによって、生徒の意欲を高めた。今年度は昨年年度の学びを生かしながら、さらに、授業の工夫に取り組むこと。

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
機械	義務教育段階における学習内容を基盤として、機械に関する基本的な知識・技術を理解している。	4.1	4.2	工業技術基礎では、基本的な知識・技術を身に付けることができる。3年間の機械・技術の分野に取り組み、授業改善を図ることができた。来年度についても基本的な知識・技術の身につめと身に付けることができるよう、丁寧な授業を行っていく。
	機械技術が社会に果たす役割を理解し、機械分野を取り巻く諸課題について整理して表現することができる。	4.3	4.2	生徒は、工業技術基礎で身に付けた機械技術で課題作成を行い、ものづくりを通して社会に果たす役割を理解し、ものづくりの大切さを理解した。しかし、機械分野を取り巻く諸課題については、多岐にわたる知識が必要となる。来年度の学習によって、昨年度の課題であった、今年度1学期に履修した実習の意義を、来年度に引き継いでいく。
	機械技術者として豊かな人間性を自ら育て、機械技術の発展に必要な活動に積極的に取り組むことができる。	4.1	4.1	工業技術基礎では、協働作業の重要性について、主体的で対等な意見の表明など、豊かな心と協力を要する人間性を身に付けることができた。来年度も「工業技術プログラム」で教科横断的な学習を行い、生徒の主体的な取り組みと諸協働の機会を大切にしたい。
	義務教育段階における学習内容を基盤として、電気に関する基本的な知識・技術を理解している。	4.5	4.7	今年年度、生徒は電気回路における基本的な知識を身に付けることができた。1年次の学習はこれから学ぶ、機器や電力への応用の場となるのである。来年度以降も、2年次以降を目標としたカリキュラム・マネジメントを大切にしたい。
電気	電気技術が社会に果たす役割を理解し、電気分野を取り巻く諸課題について整理して表現することができる。	4.2	4.5	今年年度、生徒は社会基盤となる電気のイキガイや動力、技術者としての責任を持つことなどができた。来年度は、「工業技術プログラム」を活用したキャリア・マネジメントに取り組む。来年度は、今後必要となる知識・生活に必要な電気技術の発展に取り組む。また、これからの学習を通じて学びたい。
	電気技術者として豊かな人間性を自ら育て、電気技術の発展に必要な活動に積極的に取り組むことができる。	4.5	4.7	電気技術の発展は生活を豊かにするとともに、安全も確保することになる。多くの人の生活を支える一人の技術者としての誇りを持つ、安全な技術発展を促される人間性を育てることが大切である。来年度は、「工業技術プログラム」を活用したキャリア教育を発展させていく。
	義務教育段階における学習内容を基盤として、電子に関する基本的な知識・技術を理解している。	4.6	4.6	今年年度、電気回路では、基本的な知識技術を身に付けることができた。来年度の単元についても、ICTを活用し、基本的な知識技術を身に付けさせた。また、ICTを活用した基本の習得の工夫について、校内で実施していく。
	電子技術が社会に果たす役割を理解し、電子分野を取り巻く諸課題について整理して表現することができる。	4.3	4.3	今年年度、生徒は半導体などの電子技術を理解し、これからの社会に必要な電子技術を取り巻く、技術者としての責任を持つことと出来た。来年度は、「工業技術プログラム」での「テクノロジー」について学びを、活用していきたい。
電子	電子技術者として豊かな人間性を自ら育て、電子技術の発展に必要な活動に積極的に取り組むことができる。	4.5	4.4	電子技術の発展は生活を豊かにするとともに、安全も確保することになる。多くの人の生活を支える一人の技術者としての誇りを持つ、安全な技術発展を促される人間性を育てることが大切である。来年度は、「工業技術プログラム」を活用したキャリア教育で、コンピテンシーを育むための知識の発展を期していきたい。
	中学校で学んだ内容をもとに、建築に関する基本的な知識・技術を理解している。	4.4	4.1	小造建築について学び、住宅や校舎などの建築物を鑑賞した。また、部品の位置や形状、方法なども確認した。技術者として、実際の建築物の様子をインターネットで観察し、他の建築物の科目との関連も確認した。
	建築技術が社会における役割を理解し、建築に関するいろいろな問題について整理して説明できる。	4.1	4	物の機能分野では、エネルギーや水の利用などにより建築物の構築する役割があることをICT技術により実大規模の動画等を見せ、建築物の科目と社会に与える影響について確認し、なぜのこととしなければならぬことなどについて話し合いで一定の表現ができるようにした。
	建築技術者として豊かな人間性を自ら育て、建築技術の発展に必要な活動に積極的に取り組むことができる。	4.2	4.1	物に、建築の分野で建築物の構築があることを学んだ。建築物の構築する電子をICT技術により実験動画を見て、建築物が人に与える影響や安全をを確認した。これにより、電子の分野で学ぶ意義がわいてきた。
建築	義務教育段階における学習内容を基盤として、土木に関する基本的な知識・技術を理解している。	4.1	4	来年度に現場に出ることによって学校で学んだ知識・技術を理解し、技術者として成長することができる。生徒が、これから現場で学んでいく機会を大切にしたい。また、現場の設備について、形成の評価を活用した授業改善に取り組んだ。来年度も継続していきたい。
	土木技術が社会に果たす役割を理解し、土木分野を取り巻く諸課題について整理して表現することができる。	4.3	4.1	道路や建築物を作るにも建築でこれに作る土木の知識も必要になる。生徒は、社会に果たす役割を理解し、大切さを理解した。来年度は、2年次以降に工業技術がカリキュラム・マネジメントに取り組み、生徒は、これらの学習を通して学習していきたい。
	土木技術者として豊かな人間性を自ら育て、土木技術の発展に必要な活動に積極的に取り組むことができる。	4.3	4.3	測量技術の発展は生活を豊かにするとともに、安全にも関与することになる。将来、現場に出て測量技術は、技術は必要とされている。来年度も「工業技術プログラム」での「テクノロジー」の進化の学習を通じて、年間授業を通して学びたい。
	踏路実現に向けて、身に付けるべき知識や技術と能力を明確に把握できる。	—	4.4	今年年度、「工業技術プログラム」を導入し、株式会社サキヤンが提供する教材を活用し、踏路実現に向けて身に付けるべき知識や技術を明確に把握することができた。来年度は、本校のこれまでの実績による資格取得や踏路実現について、より具体的に理解していきたい。
総経	自分の考えを的確にまとめ、判断し、発表することができる。	—	4.1	「工業技術プログラム」を通して、教材の設計や株式会社サキヤンが示している目標である「タイムマネジメント」を得ることにより、自己の考えを的確に人に対して伝えることができる。授業に取り組む大切な内容を理解することができた。来年度、今後の学習で設計した内容の発表を成果としていく。
	課題の解決に向けて、社会活動に貢献する姿勢を身に付けることができる。	—	4.3	今年年度は、株式会社サキヤンが提供する教材「工業技術プログラム」を活用し、テクノロジーとエンジニアリングを複合させた後に、コミュニケーションスキルとして山梨県内の身近な事例に関する学習を促し、理解を深め、地域社会に貢献して「未来」の課題と意識を一緒に解決していく。

「授業アンケート」高評価数値の推移(%:小点数第1位まで)	R6中間	R6期末
授業の始めに授業の目標を確認することができた ①強くそう思う, ②そう思う	98.1%	97.3%
話し合い, 討論, 発表などの言語活動に取り組むことができた ①強くそう思う, ②そう思う	97.5%	98.4%
他の人の話や発表に耳を傾けることができた ①強くそう思う, ②そう思う	97.4%	98.4%
ノート等で授業の記録をすることができた ①強くそう思う, ②そう思う	94.1%	94.3%
活用・探究など, 学んだことを別の場面で使うようにすることができた ①強くそう思う, ②そう思う	87.1%	86.5%
授業や単元の終わりに, 目標を達成しているかを評価することができた ①強くそう思う, ②そう思う	90.9%	91.8%
家庭学習(宿題や課題)と授業を, 有機的に結び付けることができた ①強くそう思う, ②そう思う	85.5%	85.9%
授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた ①強くそう思う, ②そう思う	98.4%	98.8%

保護者アンケート結果(学力に係わるもの)

教育課程・授業内容は、生徒や社会のニーズに応えたものになっている。 3.23
わかりやすい授業が行われている。 3.41
評価は、様々な観点から公正かつ公平に行われている。 3.30
保護者が、授業を参観する機会がある。 3.23
就職試験や入社対策として、課外・補習授業等の機会が設けられている。 3.45
5段階評価の平均値 回答数652名 / 758名中 (回答率 86%)

授業アンケート等を踏まえた総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む)

本校は部活動の活動で、授業以外の活動でも生徒が「コミュニケーション」の質・能力を持っている生徒が多い。また、工業高校であり、人学時代からロボットの進んで肯定的で、IT活用に関心のある生徒が多様化である。それについて項目は、授業アンケートにおいて、1学年から高校生自己評価であり、その自己肯定感を3年間の学びで維持している。教員の見取りでは、生徒の学習態度も自ら自己肯定感の数値としても、学年が進むに従って、生徒の自己肯定感の評価の成果を伴った妥当な自己評価になっていることと注目している。このプロジェクトの数値は、あま市での生徒自己評価であること、一貫した地域社会の方々には、本校の学習者や課題研究発表会などの機会に、ぜひとも来校いただき、そして、本校の教育内容と成果を、地域社会の方々に直接伝えていただき「社会に開かれた教育課程」へつなぐことが、コミュニティ・スクールとして次の年度目標である。

Active School Kai Project 令和6年度プロジェクト計画書(報告書)

学校番号	8	学校名	甲府工業高等学校				
全・定・通	全	学年	2	在籍生徒数	232	名	
教育目標 (学力に関するもの)	①課題発見力 ②論理的思考力 ③課題解決力 ④知識力 ⑤実践的技術力 ⑥外国語(英語)活用力 ⑦創造力⑧コミュニケーション力 ⑨社会人倫理力 ⑩主体性(学びに向かう力) ⑪発信力						
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力	1 社会が必要とする人間力を身につけた人 2 基礎的・基本的な学力を身につけた人 3 健康な心と強い体を身につけた人 4 新しい時代に対応できる能力を身につけた人						
各教科の取組							
教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題			
国語	実社会に必要な言語の知識や論理を身に付け、地域社会の製造業で必要となる言語活動につなげることが出来る。	4.2	4.3	本プロジェクトでの授業改善により、記述で答える設問を中心としたプリントに取組む場面で、記述が得意な生徒を把握して机間巡視などで主体的に考えを向上させるという授業改善効果があった。次年度は、共に考える授業を通して机間巡視する授業改善を校内で共有し、生徒主体の手伸びつなぎだす。			
	論理的に考える力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、探究的な課題解決において、自分の考えをまとめて表現することができる。	4.5	4.3	昨年度より進歩として「自然の共生についての文章を読んで考えを記述しよう」では、「文脈の共生を本文から理解しよう」とあるが近頃地域の自然との共生について考える場面でも、地元の生活にならざるままの発言の多い生徒が増えてきた。今年度は本プロジェクトを終了すると同時に、この学習活動を授業内で展開し、思考力を引き出す多面的な授業を進め、本年度も取り組まれている。			
	言葉を用いた価値観を深め、電子書籍を含めた多くの書籍に親しみ自己の向上に役立たせ、現代の言語文化の扱い方として、言葉を通じて他者と関わり地域社会に貢献しようとしている。	4.3	4.6	文章を読んだ後適切な視点での思考をついで理解し、自分独自の読者の記述をする学習を行い、形成された生徒の個性を生かして、自己調達の支援を行った。しかし、授業改善の参考とする形成的評価で、生徒の自己評価と教員による客観的评价にずれが生じ、生徒の自己調整感、本年度の達成感に乏しい。			
地公	世界の生活文化の多様性や、防災・地域や地球の課題への取組など理解するとともに、地理や地理情報システムなどを用い、地理的情報を調べるときの技能を得習する。	4.3	4.4	「地理的課題と国際協力の単元」では、関連資料を読み取り、地理的課題や問題に対する国際的な取り組みについて理解が深まった。また、関連する地理情報を収集する力が身につき、今年度は国際的な地理情報に係る積極的な取組を通じて、取得可能な結果を高めることができた。本プロジェクトの終了に伴い、関係機関等へ引き続き調査依頼を行う計画である。			
	地理的事象や地理的な課題を多面的・多角的に考察し、その内容を説明したり、議論したりする力を身に付けることができる。	4.1	4.3	「地理的課題と国際協力の単元」では、持続可能な開発目標(SDGs)と関連づけながら主体的に取り組んでの解決策を考え、他者に伝えることができ、今年度は、他者が問題をとも向き合いやすいような発表意図をもたせられ、意見を述べた点の具体的な理由まで丁寧に、指導が受けやすくなり、具体的改善によって生徒の自主性を高めた。			
	地理的な課題を主体的に追究、解決しようとする態度や日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情を養うとともに、世界の多様な生活文化を理解することの大切さについて自覚することができる。	4.1	4.3	生活文化の移住移動と国際協力の単元では、世界の移民とその歴史について興味を持ち、学習のふりかえりを通じて移民/入国者の増加によって影響を受ける受入国の人々の生活文化について、知識の定着が見られた。今年度は、他者の意見を受け止めること、自身が抱えている内容や構図した解決法を適切に改善していく姿勢に努めた。異文化間の対話の促進と、国際感覚での意思疎通に、生徒意識が高まりました。			
数学	数学Ⅰにおける学習内容を基盤として、数学Ⅱに関する概念や法則を理解し、事象を数式化したり、公式などを用いて処理することができる。	4.7	4.4	解と根の関係を扱う単元では、線形方程式の2変数の解の特性と係数と根の関係に着目することで理解が進み、解と根の関係を理解し、逆算を求め、二次方程式の判別式の成り立ちや因数分解などの因数分解などが、覚えられなかった人が公表され、今年度以降の学習成果を高めて、生徒の理解がさらに確立できたと確認できた。次年度以降の学習成果を確認していきたいと考えている。			
	各単元において、簡潔・的確に表現したり、性質や解法を論理的に考察することができる。また、理解度を自己分析して作問に挑戦している。	4.5	4.2	解と根の関係を扱う単元では、複数の方程式を用いて解いて問題がある。春までに導出の原理を確認しつつ、流れを見ながら自力で解けるように、春には解き方の整理が効率的になり、解く作業が楽になることを目指す。次年度以降の一層、既得事項の復習を手で行いながら、生徒の自信につながるような丁寧な評価も行う。			
	評価表を通じて授業内容を振り返り、演習や小テストなどで再評価、理解度を再評価・改善しようと心掛け、問題解決に主体的に取り組むことがある。	4.7	4.7	1年および2年単位も増えたため、試験などの授業内評価を取り組んでいる。前半・後半別の範囲ごとの学習や演習で再評価、小テスト等の定期試験の結果があり、授業での理解の程度に基づいて個別に質問を受ける機会が出る。本年度は、生徒主体の学習を目指す中で、努力すれば結果的に結びつく成果が得られるように、今年度の学習成果を踏まえ、適宜に支援していく。			
理科	物体の運動や様々なエネルギーについての基本的な概念や物理・法則などを理解していると、科学的に探求する必要な観察・実験などに際する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	4.7	4.1	ルーブリックによって教師側の内容ポイントや明確になっている。例えば動物に働く力を見つけたりするために、図に示して考えようという基本的な技能を身に付けさせることの重要性を改めて認識した。また、分野間で基本的な考え方や操作や時間等をかけて時間を要することを事前に理解できた。本プロジェクト終了後も、ルーブリックを有効に活用したい。			
	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、豊かな人間性を高め、見通しもたどり振り返りを行うなど、科学的にかんづけつつ、共同的に探究しようとしている。	4.5	4.1	物理学の運動と力学の相互作用の単元では、命題を扱っているが、教科書上の図面を使わずに自分で描いたりして理解のとおり一層の理解を促せることも可能。今年度は、これを利用して、十分な理解が確保できるようにしたい。			
	英語実力試験にも対応可能な単語、熟語、文法など、その意味や適切な使い方を理解できる。また、英語を使う上で、重要な文化的、社会的背景について理解している。	4.2	4.2	我々の生活中で、方言だけでなく関わっているのがいろいろな情報や、専攻科目の教育内容は十分に共通であり、応用する際のハードルが低かった。今年度は、語彙の強化を図りたい。個人所好や専門分野、あるいは個人の意向に沿ったものに努めた。次年度は、各専攻科の教科横断的な学び及びキャリアアップ・マージンシフトに取り組む。			
英語	英語で情報や考えなどを基礎的な表現や応用的な表現を用いて書き、また伝えることができる。	4.2	4.2	昨年度、Lessonでは、英語で書かれた案内板の情報全てを読み取るという目標のために、語彙・文法力の強化を図っていたが、ターゲットの文法事項を勉強会をしたことで達成できなかったことに努めた。次年度も、基礎知識の定着に努めている。			
	英語で情報や考えなどを基礎的な表現や応用的な表現を用いて書き、また伝えることができる。	4.3	4.3	Lessonの次の年度では、命令文を扱っているが、教科書上の図面を使わずに自分で描いたりして理解のとおり一層の理解を促せることも可能。今年度は、これを利用して、十分な理解が確保できるようにしたい。			
	限定的な態度で言語活動に参加し、相手の状況に応じて実践的にコミュニケーションを図ろうと努力している。	4.4	4.3	Lessonの次の年度では、命令文を扱っているが、教科書上の図面を使わずに自分で描いたりして理解のとおり一層の理解を促せることも可能。今年度は、これを利用して、十分な理解が確保できるようにしたい。			
芸術							
1学年のみ							
家庭							
1学年のみ							
保健体育	自ら基本的な体力に気づき、自己に応じた目標設定を行い高い。練習方法の選択、新たな目標設定等の過程を気づき体力を高める方法を習得する。	4.5	4.8	【持久走】(競技)では基本的な体力を身につけていくことができた。今年度は、本プロジェクトの取り組みによって、昨年度効果的だった指導方法を引き継ぎ、さらなる改善を通じて生徒の自己評価を高めることができた。次年度以降も、継続した取り組みを行っていく。			
	自己の仲間の動きを察して、良い点や修正点を指摘する。課題解決の過程を踏まえて仲間と共に課題を発見、解決する方法を学ぶ。	4.3	4.3	【体の構造】では自分の身体を分析して、課題解決能力を高めることができた。今年度は、良い点や修正点を指摘し、課題解決能力を高めるべく仲間と共に発見する力を養成し、授業改善に努めた。次年度以降も、協調学習を活かし、課題解決力の向上を目指す。			
	体力、技術を向上するとともに、課題や挑戦を大切にしながら危険予測をしなが合理的に解決を目指す。	4.5	4.8	体育課程の授業では身体に行きたい動作・「賢い」「賢い」という言葉を実践できる授業を行っている。今年度は、本プロジェクトの取り組みによって、昨年度の指導方法を引き継ぎ、さらなる改善を通じて生徒の自己評価を高める。次年度以降一層、賢い・賢い・賢いと授業のつながりを教員自身にと意識したい。			

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
機械	機械に関する知識・技術を深く理解するとともに、関連する基本的な技術を身につける。	4	4.5	生徒は、実習Aでは、基本的な知識・技術を身に付けることができた。今年度は、昨年度の成果を引き継ぎ、基本的な知識・技術をしっかりと身に付けることができた。丁寧な授業を行った。本プロジェクト終了後、授業の方向性成果を振り返り、共有して生かした。
	機械分野を取り巻く諸課題について深く理解し、合理的かつ創造的な解決を目指して考えることができる。	4.1	4.5	生徒は、実習Aで身に付けた機械技術で課題作成を行い、ものづくりを通して社会に果たす役割を理解し、ものづくりの大切さを理解した。今年度は、機械分野を取り巻く諸課題については、考察する場面が十分に設けられていた。実習の中で示している授業改善に取り組んだ。本年度は、より多くの考察力や創造性を伸ばすことに取り組む。
	機械技術者として豊かな人間性を高め、機械技術の発展に主体的かつ協動的に取り組むことができる。	4.1	4.5	実習では、協働作業の場でものづくりを行っており、主体的で積極的な実習に取り組んだ。豊かな心と他者協力できる人間性を養ったことができた。次年度も、「工業技術プログラム」での教科横断的な学びとして、生徒の主体的な知識の組み立てと話し合いの機会を大切にした。
	電気に関する知識・技術を深く理解するとともに、関連する基本的な技術を身につける。	4.1	4.5	生徒は、電気知識における基本的な知識を身につけることができた。変圧器の学習は次に学ぶ誘導機を学習する際に必要な知識となっており、今年度1学期に引き続き、変圧器の単元を大切に取った。次年度も、基礎として電気知識の定着に努めた。
電気	電気分野を取り巻く諸課題について深く理解し、合理的かつ創造的な解決を目指して考えることができる。	4.4	4.5	生徒は、社会基盤となる電気というインフラを扱う、技術者として自覚を持てることができた。電気は発電所から私たちの家に届くまでに、いくつかの変圧器を経由してきている。そのことをイメージしながら学ぶ機会が増えた。次年度も、実社会につながる問題意識の学びを展開する。
	電気技術者として豊かな人間性を高め、電気技術の発展に主体的かつ協動的に取り組むことができる。	4.6	4.5	電気技術の発展は生活を支えるとともに、安全に確保することになる。想像力やイメージングの単元は変圧器の事故、そしてその事故の影を落とさず、安全な設計のための工夫について考察し、より安全な設計を模索していた。今年度の電気と生活、生徒の主体的に学習意欲の燃え高まってきた。次年度も深めていく。
	電子に関する知識・技術を深く理解するとともに、関連する基本的な技術を身につける。	4.2	4.3	電気知識に関する基本的な知識を用いて未知な事を考えることなどを行うことで利用活用による基本的な知識技術を身につけることができた。今年度は、展開問題を解くなど、個別に学習する時間を利用し、知識技術より一層、定着させることに努めた。今年度は、OICTを活用した「個別学習の時間」を実施していた。
	電子分野を取り巻く諸課題について深く理解し、合理的かつ創造的な解決を目指して考えることができる。	4.2	4.3	単元の終わりに振り返りの時間をとって学びの変化について考えさせることと組み入れた。個別に学習した内容を振り返りに説明したり、他者と話し合い自分の考えを他者と共有し合いながら考えたりと進められる機会が得ていた。今年度の電気と生活、生徒の主体的に学習意欲の燃え高まってきた。本プロジェクト終了後、次年度へつなげる授業改善に取り組む。
電子	電子技術者として豊かな人間性を高め、電子技術の発展に主体的かつ協動的に取り組むことができる。	4.2	4.3	重要な専門用語を英語で調べ、技術英訳を身に付けながら指導資料に組み入れながら、電気回路図や写真の活用の中で、自ら探究する機会を増やした。グループ協議を活用することで、主体的な知識の組み立てができた。本プロジェクト終了後、次年度は、電気と生活のつながりについて、他者の意見や取り組みを参考に、授業改善に取り組む。
	建築に関する知識・技術を深く理解するとともに、関連する基本的な技術を身につける。	4.2	4.3	建築分野を受け継ぐ単純な材料に生じる力の単元では、軸方向力、せん断力、曲げモーメントについて読みがきを行うことができた。今年度は、求めた答えを提示するところや学習する生徒について、個々の見取りや学習、学習の進捗の力に支援を支援した。次年度は、より多くの生徒が主体的に探究することに取り組む。
	建築分野を取り巻く諸課題について深く理解し、合理的かつ創造的な解決を目指して考えることができる。	4.3	4.5	建築分野を受け継ぐ単純な材料に生じる力の単元では、軸方向力、せん断力、曲げモーメントについて読みがきを行うことができた。今年度は、求めた答えを提示するところや学習する生徒について、個々の見取りや学習、学習の進捗の力に支援を支援した。次年度は、より多くの生徒が主体的に探究することに取り組む。
	建築技術者として豊かな人間性を高め、建築技術の発展に主体的かつ協動的に取り組むことができる。	4.4	4.7	設計中継を受け継ぐ単純な材料に生じる力の単元では、複雑な構造の建物やわたしたちの家の設計について、自ら考え解決する機会に生じる力に減少があった。しかし、多くの生徒は思考している。今年度は今年年度の課題を引継ぎ、解答を導き出す手立てで学習の進捗の力に支援を支援した。
建築	土木に関する知識・技術を深く理解するとともに、関連する基本的な技術を身につける。	3.4	3.4	以上の学習では、資料をもとに考えたり、図や模型の活用で方向や角度を定めて学習することで、知識や技術の吸収を促す。自問自答や他者との対話など、今年度は、次第的な理解を通して、人との関わり合いを事例を組む。技術者の前にもあることを指導し取入れた。次年度、キレやデザインで建築・技術の知識を身に付ける。
	土木分野を取り巻く諸課題について深く理解し、合理的かつ創造的な解決を目指して考えることができる。	3.2	3.2	「ワークシート」を通して、同一空間の問題を異なる視点で、一つの問題を解き、文書に記入し、および自分の考えや意見を表現するところに取り組み、表現力や対人対応力向上。今年度は、学んだ知識を社会的な課題、工夫で進めたい。実習や学習計画などとの連携を深めた。次年度、学んだ内容を社会に活かす機会を増やす。
	土木技術者として豊かな人間性を高め、土木技術の発展に主体的かつ協動的に取り組むことができる。	3.5	3.7	昨年度から、周辺の生活環境の中で、土木現場を見学してとやみだに技術の学習に当たったことなど、周辺でスマートファクトリーに目を惹きつけ、自分の意見を伝えデータを送っている生徒が増えた。今年度は、この個々のデータを全てで話し合い、協働の学びに発展させ、よりよい環境が実現した。次年度はデータを活用して主体的な探究に取り組む。
		—	—	
総探 1学 年 の み		—	—	
		—	—	
		—	—	

「授業アンケート」高評価数値の推移(%:小数点第1位まで)	R6中間	R6期末
授業の始めに授業の目標を確認することができた ①強くそう思う, ②そう思う	96.7%	97.5%
話し合い, 討論, 発表などの言語活動に取り組むことができた ①強くそう思う, ②そう思う	97.8%	98.6%
他人の話を発表に耳を傾けることができた ①強くそう思う, ②そう思う	98.1%	98.8%
ノート等で授業の記録をすることができた ①強くそう思う, ②そう思う	95.3%	96.4%
活用・探究など, 学んだことを別の場面で使うようにすることができた ①強くそう思う, ②そう思う	86.4%	86.5%
授業や単元の終わりに, 目標を達成しているか进行評価することができた ①強くそう思う, ②そう思う	91.5%	91.8%
家庭学習(宿題や課題)と授業を, 有機的に結び付けすることができた ①強くそう思う, ②そう思う	87.1%	87.8%
授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた ①強くそう思う, ②そう思う	97.5%	97.6%

力に係わるもの)

会のニーズに応えたものになっている。3.2

3.41

公平に行われている。3

3.23

／750名中（回答率 96.9

17. 1884年：（同治二十三年）

また総合評価（学校としての今年）

授業アンケート等を踏まえた総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む)

本校は部活動以外で活発にコミュニケーションの機会・能力を培っている生徒が多く、工業高校であり、入学時よりデジタル教育の進捗に肯定的で、ICT活用に関心のある生徒が多数である。それによりこの項目は、授業アンケートにおいて、1年時から自己評価であり、その自己肯定感や3年間の学びを維持している。教員の見取りとしては、生徒の学習認知による自己肯定感の数値は、学年が進んでいくにつれて、生徒の自己肯定感や学びの成果を伴った妥当な自己評価に近づくことにより注目している。このプロジェクトの数値は、あくまで生徒の自己評価であるため、一貫して地域社会の方々に、本校の学習会や課題研究発表などの機会に、ぜひとも、来校いただき、そこで、本校の教育内容と成果を、地域社会の方々に直接提供していただき「学校」に関わった研究開発へバックアップが、コミュニティ・スクールと次の年度目標である。

Active School Kai Project 令和6年度プロジェクト計画書(報告書)

学校番号	8	学校名	甲府工業高等学校		
全・定・通	定	学年	3	在籍生徒数	242 名
教育目標 (学力に関するもの)	①課題発見力 ②論理的思考力 ③課題解決力 ④知識力 ⑤実践的技術力 ⑥外国語(英語)活用力 ⑦創造力⑧コミュニケーション力 ⑨社会人倫理力 ⑩主体性(学びに向かう力) ⑪発信力				
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力	1 社会が必要とする人間力を身につけた人 2 基礎的・基本的な学力を身につけた人 3 健全な心と強い体を身につけた人 4 新しい時代に対応できる能力を身につけた人				

各教科の取組

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
国語	社会が必要とする人間力を意識して、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、状況に応じて適切な表現や言葉遣いを使い分けすることができる。	4. 5	4. 6	生徒は、授業課題を提出することによって、実社会に必要な漢字・語彙・表現方法を身につける学習を通して、社会人としての基礎力を培うことができた。次年度は、実社会につながる知識を活用できる協働的な学びを一層増やしたい。
	論理的思考力、コミュニケーション力、発信力を磨き、実社会における他者との多様な関わり合いを促すために、実社会の状況と課題解決に取り組むことを目指して、情報の収集整理や発表をすることができるようになる。	4. 5	4. 5	生徒は、論理的な構成の小論文や、適切な自己紹介文を書く学習を通して、自己の考えや意見を明確に表現し、他者の意見や主張を尊重し、課題解決を目指すキャリア形成を定着させて、「課題研究」などの教科横断的な学びを図りたい。
	言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しみながら、社会が必要とする人間力を向上させ、言葉を通して他者や社会と関わり、新しい時代に対応していく。	4. 7	4. 6	国語を学ぶことの大切さを理解し、読書に親しみながら、時代の変化に対応した、より良い人生を送ろうとする態度について、3年間の学びの成果を振り返ることができた。次年度は、オンラインでの読書も含めて、学びの可能性を広げたい。
	私たちの生活や身近な地域などに見られる諸現象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とながっていることを理解している。	3. 9	4. 3	昨年度は、地理の分野において国の歴史や人々の生活様式について学習させた際、教員からの説明が多かった。今年度は、生徒主体でグループや個人ワークで比較表などを作成させるなど、授業展開を改善できた。
地 公	近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現している。	4	4. 1	地域や国際化の歴史を踏まえて他国と比較しながら、現在の国家体制について学びを深めた。また、単元ごとに担当者を決め、歴史を学習するとともに、現在につながる良い・悪いを考察するための必要とをPowerPointでまとめ、クラスで共有しながら考える学習が継続できた。今後比較しながら考える機会を増やしていきたい。
	中学校社会科における学習の成果を生かし、歴史的な考察の方法やその特質について、主観的に理解を深めようとしている。	4	4. 3	授業内で日本や世界諸国に関する記事を取り上げ、世の中への理解を深めようとしている。また、毎回の授業で「時間割」を確認し、自ら調べながら学習してきた。今年度は、生徒自身が学習するなどのアクティブラーニングが広がったことができたが、今年度は調整することができた。
数学	数学1・Ⅱにおける学習内容を基礎として、極限・微分法・積分法に関する概念や法則を理解し、公式などを用いて処理することができる。	4. 4	4. 5	生徒は、復習や小テスト、授業課題を提出することによって、進学に必要な基礎力を培うことができた。進学校の専門科目の学習につながる知識を活用できる協働的な学びを一層増やしたい。
	各単元において、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする。また、理解度を自己分析して作用に挑戦している。	4. 6	4. 6	事象を数学的に考察することによって、問題解決に向けた明確な方向性を示すことができるようになった。次年度は、進学校の専門科目と教科横断的な学びを目指す。
	評価表を通して授業内容を振り返り、演習や小テストなどで単元の理解度を再評価・改善しようとし続け、粘り強く柔軟に考え、問題解決に主体的に取り組むことができる。	4. 6	4. 7	問題解決に主体的に取り組むことによって、3年間の学びの成果を振り返ることができた。次年度は、ICTの活用を多くし、ICTを活用した進学校の学習方法も含めて、学びの可能性を広げたい。
	観察・仮説の立案・実験の設計・データの解釈、そして最終的な問題解決のための計算等により、複雑な問題に対処するため思考手順を理解している。	4. 3	3. 9	実験・観察が問題の核心をつかみ、仮説を立てて実験を進め、得られたデータをもとに解釈を行い、科学的な思考力や問題解決能力の向上につながる必要がある。
理科	仮説を立て、データを収集し、それをもとに結論を導くプロセスを通じて、論理的思考をすることができる。	4. 1	4. 1	データを基にした分析を行うことで、結論の信頼性を高め、問題解決に向けた明確な方向性を示す必要がある。また、このプロセスを繰り返すことで、論理的な思考が習慣化し、複雑な問題にも対処できるようにする。
	実験を通して物理現象を観察し、データを収集し、解釈することを通して、実験的スキルを磨き、実験の設計や実施に必要な知識・技術等を習得している。	4. 5	4. 5	不十分な実験設計や不適切な器具の使用で、得られるデータの精度が低下する。また、実験中に予期しないエラーに対処する柔軟性が求められる。得られたデータを正しく解釈するためには、時間と繰り返しが必要である。
英語	日常生活に必要な単語、熟語、文法など、その意味や適切な使い方を理解できる。また、熟語を用いて、必要な文法的・社会的背景について十分に理解している。	4. 1	4. 2	教科書上のようなトピックについて学ぶ中で、日常生活に必要な語彙・文法などの基礎知識や文化について学ぶことができた。次年度はさらに進度を早め、たくさんのトピックについて学ぼうとしている。
	英語で情報や考えなどを適切な表現や応用的な表現を用いて書き、また伝えることができる。	4. 1	4. 1	様々な言語活動を通して、生徒はその場の状況に応じた適切な表現を身につけることができた。次年度はさらに様々な場面設定を加え、表現の幅を広げる活動を取り入れていきたい。
	積極的な態度で言語活動に参加し、相手の状況に応じて実践的にコミュニケーションを主体的にとらうとしている。	4. 2	4. 1	生徒はペーパーワークなどの活動を通して、相手と積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を身につけることができた。次年度はさらに生徒の興味を引き出すような活動を取り入れ、活発化させたい。
芸術 1学年のみ				
家庭 1学年のみ				
保 体	自らの基本的な体力に気付き、自己に応じた目標設定を行い高める。練習方法の選択、新たな目標設定等の過程を気づき体力を高める方法を習得する。	4. 3	4. 4	9月下旬の強歩大会まで行っている校外生において、各自の目標設定と実際に走ったタイムでの達成度から、自己への理解を深めた。次年度は、目標を達成するための知識の習得や、目標の再設定での自己理解の深化を目指す。
	自己の中間の動きを分析して、良い点や修正点を指摘する。課題解決の過程を通して、良い点や修正点を指摘する。課題解決の過程を通して、良い点や修正点を指摘する。	4. 3	4. 4	生徒は、校外生を実施するにあたって、自己の体力や健康状態をつきと把握しながら、適切な目標設定を各時間で行うことができている。思考した。体力や記録の向上につながる目標設定を、次年度も研究させたい。
	発見、解決する力を養う。	4. 5	4. 5	授業後に記入している「授業の反省」をつきと記入して、次の時間への課題を明確にするように指導した。「粘り強く」をもって、向上を目指すように、次年度も主体的な学びを推進したい。

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
機械	機械に関する知識・技術を体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。	4. 4	4. 7	「課題研究」では、設定した課題に取り組むための知識の深化・総合化を図った。暗記で終わらない学び、社会や人生で活かせる知識の使い方を習得させることに、次年度も注力したい。
	機械技術に関する課題を発見し、機械技術者として倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に課題を解決できる。	4. 4	4. 7	研究の成果を整理し分かりやすく発表することは、思考力、判断力、表現力等の育成や生徒自身の学習を深める上で大変効果的である。次年度も言語活動の充実を図るとともに、発表の機会を設けたい。
	機械技術者として豊かな人間性を身につけ、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	4. 5	4. 7	課題解決の過程で、ものづくりにおける「計画・実行・評価・改善」の評価サイクルにより、「自己調整」を促しながら、課題解決に取り組むよう指導してきた。次年度も工業科としての専門性から、求められる資質・能力を育成したい。
電気	電気に関する知識・技術を体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。	4. 2	4. 3	電力の使われ方や電気機器の仕組みについて基本的な考え方や知識・技術を身に付けることができた。次年度は協働的な学びを一層増やしたい。実社会で活用できる能力を身に付けさせたい。
	電気技術に関する課題を発見し、電気技術者として倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に課題を解決できる。	4. 1	4. 3	三相誘導電動機と三相同期発電機の特徴について、違いを説明することができた。課題点を見出すことができた。次年度は、グループ協議を通じて解決策を考える力を身につけたい。
	電気技術者として豊かな人間性を身につけ、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	4. 4	4. 4	グループワークにおける調べ学習や企業見学を通して、電気技術者の在り方を培うことができた。次年度は個別最適な学びの場を実現したい。
電子	電子に関する知識・技術を体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。	4. 1	4. 1	通信に関わる現象について基本的な知識と技術を身につけさせることができた。次年度は、よりICTを活用した「個別最適な学び」を実現したい。
	電子技術に関する課題を発見し、電子技術者として倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に課題を解決できる。	4	4. 1	画像信号の構成や画像を復元するために必要な信号の仕組みや特徴を説明することで、表現する力を身につけることができた。次年度は、グループ協議を通して主体的に取り組む機会が増えた。次年度もこれを継続していきたい。
	電子技術者として豊かな人間性を身につけ、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	4. 2	4. 2	身近にあるアンテナや携帯電話などの移動通信システムがどのように構築されているか、生活の中でどのように関わっているかを考える場面を設定し、グループ協議を通じて主体的に取り組む機会が増えた。次年度もこれを継続していきたい。
建築	建築に関する知識・技術を体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。	4. 5	4. 5	各種建築物に関する基本的な知識と、計画する際に必要な技術を培うことができた。次年度はさらに協働的な学びを増やしていきたい。
	建築技術に関する課題を発見し、建築技術者として倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に課題を解決できる。	4. 3	4. 5	各種建築物を計画する際の課題点を見つけ、その解決策を適切に表現する力を培うことができた。次年度は他者の意見を考察し、解決策を表に表出できる協働的な機会を増やしたい。
	建築技術者として豊かな人間性を身につけ、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	4. 3	4. 7	調べ学習やグループワークを通して、主体的に取り組む姿勢を習慣づけることができた。次年度は自らの学習を振り返る時間を増やしていきたい。
土木	土木に関する知識・技術を体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。	4	4. 1	課題研究「材料」では、人によるインフラ整備が身近にあることを体験する過程で、施工の難しさを課題として理解し、その理解を思考・判断・表現へつなげた。次年度も体験を大切に、知識を習得させたい。
	土木技術に関する課題を発見し、土木技術者として倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に課題を解決できる。	3. 9	4. 1	構造物を完成させるまでには、手段と工夫が数多く存在することを知り、最善案を選択しながら改善点を考察できる力を身につけることができた。次年度も、知識・技術が思考・判断・表現につながることを実感できる学びを目指したい。
	土木技術者として豊かな人間性を身につけ、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	4	4. 1	研究結果のまとめでは、人により早く伝える資料作成に取り組む中で、生徒は協働学習を活かして、「自己調整」を図っていた。良いまとめと発表になるように、「粘り強く」取り組める支援を、次年度も大切にしたい。
総探 1学年のみ		—		
		—		
		—		

「授業アンケート」高評価数値の推移(%:小数点第1位まで)				R6中間	R6年度末
授業の始めに授業の目標を確認することができた ①強くそう思う、②そう思う				96.3%	96.6%
話し合い、討論、発表などの言語活動に取り組むことができた ①強くそう思う、②そう思う				95.5%	95.4%
他の人の話や発表に耳を傾けることができた ①強くそう思う、②そう思う				98.2%	98.1%
ノート等で授業の記録をすることができた ①強くそう思う、②そう思う				94.2%	94.3%
活用・探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた ①強くそう思う、②そう思う				85.2%	85.5%
授業や単元の終わりに、目標を達成しているかを評価することができた ①強くそう思う、②そう思う				91.1%	92.9%
家庭学習(宿題や課題)と授業を、有機的に結びつけることができた ①強くそう思う、②そう思う				86.1%	86.5%
授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた ①強くそう思う、②そう思う				97.1%	97.7%

保護者アンケート結果(学力に係わるもの)

教育課程・授業内容は、生徒や社会のニーズに応えたものになっている。3.23 わかりやすい授業が行われている。3.41 評価は、様々な観点から公正かつ公平に行われている。3.30 保護者が、授業を参観する機会がある。3.23 就職試験や入試対策として、課外・補習授業等の機会が設けられている。3.45 5段階評価の平均値 回答数652名/758名中(回答率 86%)

授業アンケート等を踏まえた総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む)

本校は部活動に活発であり、授業以外の活動でもコミュニケーションの資質・能力を培っている生徒が多い。また、工業高校であり、入学時からテクノロジーの進化した肯定で、ICT活用に関心のある生徒が多数である。それらについては、授業アンケートにおいて、1学年から高い自己評価であり、その自己肯定感を3年間の学びで維持している。教員の見取りとしては、生徒のメタ認知による自己肯定感の数値も、学年が進むに従い、生徒の自己肯定感を3年間の学びで維持している。このプロジェクトの数値は、あくまでも生徒の自己評価の数値であり、主観になった地域社会の方々には、本校の学習効果や課題研究発表などの機会に、ぜひともご褒美いただきたい。そこで、本校の教育内容と成果を、地域社会の方々へ直接感じていただき、「社会に開かれた教育課程」へつながることが、コミュニティ・スクールとなる次年度の目標である。



THANK YOU
VERY MUCH